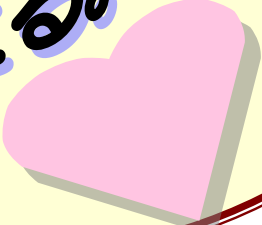


# 精神病院をなくした国 イタリアを知らず、 学習会 考える。



**日時** 3月7日(水) 午後6時～午後8時

**場所** 富田林市立人権文化センター  
複合施設

**内容** 世界で初めて精神病院をなくした国イタリア。

1978年、イタリアでは、バザリア法の制定によって、次々に精神病院が閉鎖されました。今回の学習会では、閉鎖に至る経過や精神病患者と家族、地域社会について人権を守り育てていく大切さについて話していただきます。この学習会以降に別日程で映画上映

「おかし MATTO の町があった」を開催します。

(映画について裏面を参照)

**講師** 小村絹恵さん(佛教大学准教授)

お問合せ先：富田林市人権教育・啓発推進センター  
TEL (0721) 20-0285

【主催】富田林市人権教育・啓発推進センター

# むかし Matto の町があった

『むかし Matto の町があった』とは、[イタリア](#)映画である。[精神科](#)病院を廃止した、実在の[精神科](#)医である[フランコ・バザリア](#)の苦闘と、[精神障害者](#)患者達との交流を描いた。本国イタリアでは、[テレビドラマ](#)として放映された<sup>[1]</sup>。

あらすじ[\[編集\]](#)

- （一部）バザリアはある精神科病院の院長として赴任してきて、非人間的な患者の管理を目の当たりにして、改革への意欲に目覚める。ユーゴでナチスに痛めつけられた過去を持つ自傷癖の男ボリスや、アメリカ人に輪姦されたトラウマ故に性に厳しい母に入院させられた女マルゲリータなどが特に目立つ患者だった。しかし、ある患者が帰宅中に妻を小さな諍いから過って死なせてしまう事件が起こり、改革の断念に追い込まれる。マルゲリータは男の患者に馬乗りになって性交し[妊娠](#)する。ボリスは絵を描くことに目覚める。
- （二部）アメリカの大学で教鞭を執っていたバザリアの所に、イタリアの県知事が訪れ、[トリ](#)[エステ](#)の病院を改革してほしいと依頼する。バザリアは、マルゲリータやボリスや前の病院で、協力的だった看護婦とその病院で再会する。マルゲリータは母に子を奪われるが、アメリカから来たギタリストと恋に落ち、また妊娠したが逃げられる。ボリスは女性患者と恋に落ち、院外で同棲のチャンスを得るが、結局失恋してしまう。バザリアは、精神科病院の廃止運動を始め、イタリア政府に色々働きかけるが、[赤い旅団](#)に首相を殺されたりして難儀する。そして彼は、[脳腫瘍](#)で倒れる。

（出典 [ウィキペディア](#)）